



内定体験記

林野庁

## はじめに

資料をご覧ください、ありがとうございます。

本資料は将来林野庁への入庁を希望する皆様の試験勉強の参考にしてもらうことを目的に、林野庁一般職内定者70人から、先輩達がどういう風に勉強して、どういうことをやっていたのか聞き取り、いくつかパターンに分けて、整理した「内定体験記」です。

試験対策に正解はありません。不安になった時は、たまに気晴らしつつ、先輩達も同じ道を歩いてきたんだなぁと参考にして頑張ってください。

次ページからの内定体験記を見ていただければわかると思いますが、林野庁の内定者は色々な方法で勉強し、色々なところから、色々な思いを持ってきています。林野庁はそれだけ多様な人材がいて、多様な人材を求め、多様な仕事をしています。

「林野庁」「森林管理局」について、初めて聞いた方、なじみがない方、詳しくは知らない方、様々かと思いますが、本資料を見て頂き、少しでも興味を持っていただければ幸いです。  
※業務の内容については、別資料をご参考ください。



## 試験（一般職）について

国家公務員試験制度は、採用までには2つのプロセスがあります。  
1つ目は人事院が行う国家公務員試験で、筆記と面接にわかれます。  
2つ目は各府省で行う官庁訪問等で、これにパスすることで国家公務員になることができます。  
林野庁の官庁訪問は、職場の雰囲気を感じてもらおうとともに、入庁するにあたっての疑問を解決する場として設けており、その後採用面接にて内定を決定します。



H30試験日程（参考）	
H30.2.1	受験案内人事院HP掲載
H30.3.23	官報公告
H30.4.6~4.18	申込受付期間
H30.6.17	<b>一次試験</b>
H30.7.11	一次試験合格発表
H30.7.12~8.5	現地業務説明会（各森林管理局） ※任意参加
H30.7.13~7.20	合同業務説明会（各人事院事務局） ※任意参加
H30.7.18~8.3	<b>二次試験（人物）</b>
H30.8.5	合同業務説明会（本府省） ※任意参加
H30.8.6~	官庁訪問予約開始
H30.8.21	最終合格発表
H30.8.22~8.25	<b>官庁訪問</b>
H30.8.22~8.31	<b>採用面接</b>
H30.10.1	内定

# 林学・独学①

学年・性別・年齢	学部4年・男・22歳
併願先	環境省
インターンシップ	なし
試験区分	林学
専攻科目	海洋学 環境社会学

## Q1.勉強方法（1次試験）について

### （1）基礎能力試験

数的処理のみ試験対策を行った。試験では文章読解、数的処理に集中し、その他の問題は時間を作るため、早く解くよう努力した。数的処理でも解けないと思った問題は捨てた。

### （2）専門試験・専門記述試験

白書、ニューフォレストーズガイド、森林林業必携、過去問を用いて、独学で試験対策を行った。はじめに、白書とニューフォレストーズガイドを読み込み、重要だと思うところにラインを引いたり、紙に箇条書きして覚えた。しかし、過去問で解けないところが多かったため、白書と森林林業必携を用いて解けない問題を調べ、ノートにまとめていく勉強方法に切り替えた。早くから過去問に取り組み、問題の難易度や傾向を把握することが重要だと感じた。専門試験は時間が余った。記述試験は6割程度書いた。

## Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

### （1）身上書の書き方

内容を簡潔にし、面接で具体的に質問されることを想定して、手書きで書いた。他の方達はExcelで書いていた方も多いように感じた。

### （2）官庁訪問

1対1で、1日に2回行われた。和やかな雰囲気で行われ、多くのことを質問することが出来た。事前にパンフレットなどの資料に目を通しておき、質問を考えておいた方が良いと感じた。また、簡潔に志望動機など自己紹介を行えるように準備することも重要だと感じた。

### （3）採用面接

1対6で、1日に1回行われた。和やかな雰囲気で行われ、6人の面接官一人一人から、2~3個質問されていく面接だった。身上書に記入した内容に沿って行われ、志望動機や業務といった内容の質問よりも、学校で学んだこと、趣味、交友関係、学外での活動など、自分がどのような人なのかについて知るための質問が多かったように思う。面接の待ち時間は他の受験者の方達と雑談し、面接直前の部屋前で待機する時間は林野庁で働く方と雑談して過ごした。

## Q3.林野庁に決めた理由

私は林野庁のイメージとして「林業」の印象が強く、私が学んできたことはあまり生かせない、力になれないと思っていたが、説明会や林学の勉強を行うにあたって、生物保全といった公益性の面での業務や、林業の重要性について学び、非常にやりがいがあり、魅力的な仕事だと思うようになった。また、様々な場所で仕事できるというのも私が国家公務員を目指す理由の一つであり、林野庁の仕事を通じて日本各地の国有林や植生を見たいと思った。研修制度も充実しているため業務に対しての不安もなく、仕事をしていくにあたり、技術、知識を身につけたいと思えた。

## Q4.後輩へのアドバイス

公務員試験は民間企業の就職活動と比較して複雑だと思います。筆記、面接試験対策だけでなく、早い段階から公務員試験のおおまかな流れを把握しておき、必要書類や官庁訪問の予約、締め切り日時など確認し、1次、2次試験後に、迅速に対応した方が良いと思います。私も公務員試験について分からないことが多く不安でしたが、インターネットで調べたり、説明会に参加することで情報を得ていました。また、公務員試験を受験したことのある先輩からお話を聞くことも一つの手段だと思います。

## 林学・独学②

学年・性別・年齢	学部4年・男・22歳
併願先	都道府県庁
インターンシップ	あり（県庁）
試験区分	林学
専攻科目	生物学（生態学研究室）

### Q1.勉強方法（1次試験）について

#### （1）基礎能力試験

公務員講座は受講していなかったため、インターネットや公務員志望者向けの本などを参考に問題集を選ぶところから始めました。基礎能力試験については、問題数の多い知能分野（文章理解や数的推理、判断推理、資料解釈）の問題集を1～2冊選びそれぞれ2～3周するようにしていました。知識分野は範囲が膨大であるため特に対策はしていなかったです。また定期的に過去問を本番のつもりで時間を計って解き、ある程度時間配分を決めてイメージするようにしていました。

#### （2）専門試験・専門記述試験

林業白書や森林林業実務必携、過去問を使って独学で勉強しました。具体的には、まず過去問に目を通してどのような問題が出題されているのかを確認し、その後で林業白書や必携を用いて問題を解く上で必要となる知識を深めるようにしていました。白書に何回も目を通して体系的な知識を得ることは記述試験を解く上でも役立ちました。例えば、日本の林業の現状や問題点、その解決策などについて、白書の言葉を使って自分で説明することができるように心がけていました。

### Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

#### （1）身上書の書き方

手書きの方が思いが伝わると思い、手書きで丁寧に記入しました。書き方としては、面接官に話したい内容を質問してもらえようように誘導するように書くイメージで、また自分自身が本番で話しやすいエピソードを選びました。

#### （2）官庁訪問

職員さんとお話する貴重な時間でした。実際に林野庁で働くことをイメージするといろいろな質問が浮かんできて、自分のやりたいことと林野庁の実際の仕事内容で一致している部分があるか確認することもできました。

#### （3）採用面接

大学の就職支援室の面接練習会なども含めて、面接は何度も経験してきたためそれほど緊張しませんでした。面接は経験が重要であると思います。場慣れするほど上手く話せるようになりますし、面接があるたび面接カードの書き方などの反省点が出てくるため、経験を通して少しずつ成長することができたのだと感じています。また私は面接前は、面接官の人と楽しくお話することができたらいいな、などと気楽に考えるようにして出来るだけリラックスした状態で臨めるように工夫していました。

### Q3.林野庁に決めた理由

大学生生活を通して、私は人や地域のために何かをしたときに一番やりがいを感じる人であると自己分析し、国家公務員は一つの目標でした。小さい頃から山などの自然が好きで、また大学の登山部での活動を通して山や森林などの自然を守る仕事に携わりたいと感じたために林野庁を選びました。実をいうと大学2年生の時からずっと環境省を目指していましたが、説明会に参加したり自分で業務内容について調べていくうちに、雰囲気なども含めて自分には林野庁の方が合っていると感じ、直前になって官庁訪問も林野庁に絞ることに決めました。

### Q4.後輩へのアドバイス

自分は何をしたときにやりがいを感じるのか、将来は何を実現したいのか、などといったことを何度も自分で考え（自己分析をして）、また説明会にも積極的に参加するとよいと思います。それは面接対策にも直結しますし、自分が本当に働きたいと思える場所を見つけることができるのではないかと思います。

## 林学・独学③

学年・性別・年齢	学部4年・男・22歳
併願先	都道府県庁・環境省
インターンシップ	なし
試験区分	林学
専攻科目	野生動物保護管理学

### Q1 勉強方法（1次試験）について

#### （1）基礎能力試験

短い試験時間の中でどれだけ効率的に問題に取り組むかが重要です。知識問題は時間をかけずに確実に点数をとれるので、普段から新聞を読むなどの習慣を身につけておくといいと力になります。数的処理や判断推理は独特な問題が出るので参考書を取りあえず1回やっておきました。公務員講座も行われているようですが、受講するより独学のほうが身につくと思います。

#### （2）専門試験・専門記述試験

独学で勉強しましたが、そういう人も少なくないようです。森林・林業実務必携と森林・林業白書を主に使って勉強し、過去問で確認しましたがかなり苦勞しました。うろ覚えで問題を解こうとすると二択くらいまでしか絞れませんので。試験自体はほとんどが知識問題なので時間は余ります。記述は最近の動向から何となく出題が予想できます。

### Q2 官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

#### （1）身上書の書き方

それぞれについての記入欄が狭いのでExcelで記入しました。Excelで記入すると逆に字数がかなり多くなってしまいますが、一般企業のエントリーシート程度です。上手な書き方など調べればいくらでも出てきますが、結局のところ自分の思いのたけをぶつけるのが一番だと思ったので自分なりに書きました。もちろん誠実に。

#### （2）官庁訪問

1対1を2回行いました。採用面接前に直接質問できる最後の機会だったので多くの質問をし、理解を深めました。総務課の方や海外関係の仕事をしている方などと話すことができ、現場や林業政策系の仕事に目が行きがちなか中で、もう一度林野庁という組織について熟考することができる良い機会です。面談のような形なのでリラックスして臨みましょう。

#### （3）採用面接

1対6の面接ではありますが、和やかな雰囲気で行われました。面接までも待合室でほかの受験生や職員の方々と談笑していたので精神的にも落ち着いて面接を受けることができました。身上書を見ながら待っているだけではもったいないです。面接時間は10分程度しかありませんが、聞かれるのはほぼ身上書の内容です。誠実にはきはきとした対応が重要です。

### Q3 林野庁に決めた理由

日本全域を視野に入れて仕事に携われることに魅力を感じました。実際に広大な森林を管理できる立場にあるのは林野庁だけであり、環境教育や生態系保全なども進められています。そのような幅広い活動にも携わりたいと感じました。

### Q4 後輩へのアドバイス

官庁訪問は東京で行われます。地方の人は大変でしょうがしっかりとお金の準備をしておきましょう。面接なども慣れておくために一般企業なども受けておくといいと思います。一次試験に関して私は基礎能力や専門の勉強を始めたのがかなり遅かったので本当に苦勞しました。試験勉強だけでなく何に関しても早め早めの行動をお勧めします。一般企業に比べ選考時期が遅く選考期間も長いですが、めげずに頑張ってください。

# 林 学 ①

学年・性別・年齢	修士2年・男・23歳
併 願 先	都道府県庁・国土交通省
インターンシップ	あり（国交省8月）
試 験 区 分	林学
専 攻 科 目	森林風致計画学

## Q1.勉強方法（1次試験）について

### （1）基礎能力試験

あまり勉強しませんでした。（民間のSPI等の対策は経験していましたが）直前にネットや過去問を見て練習しました。

### （2）専門試験・専門記述試験

過去問5年を一周しました。白書、森林林業必携を一周しました。記述は、過去問の傾向をつかみ、必要そうなところを押さえておきました。

## Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

### （1）身上書の書き方

手書きと入力どちらでも構わないということでしたが、丁寧に書いて字のきれいさを売りにしたいと思い手書きにしました。（結局どちらがベターなのかはよくわかりませんが）大学の支援課の講師に添削を依頼しました。アドバイスを受け、いかに字を減らすかに努めました。例えば大学の所属は学科や専攻まで書き、その先は省略しました。

### （2）官庁訪問

2名訪問しました。1人は同じ大学の先輩にあたる人で話が弾みました。面談の雰囲気です。もう1人は課長補佐級（程度？）の方で、メモ用紙を持ちながら対話していたので、少し真面目に話しました。説明会等で質問しづらいことを、この場で思い切ってぶつけてみるのも良いかもしれません。他省庁と迷っている方は、優先順位を決める場にして良いと思います。

### （3）採用面接

回答は手短かに！私は今振り返ると話しすぎたかと思います。ただ、絞りすぎるよりは少し長めになっても話したいことは伝えることを意識するとよいでしょう。やりたい仕事は直接的には聞かれず、趣味特技、研究（院生だからか）、研究成果と絡めて林野庁は何が課題と思うか、等について聞かれました。深掘りをされて困ったことは少なかったと思います。技官採用でも多様な仕事を知っていたので、新しいことは自ら先輩上司から勉強して経験を積みたい気持ちであることを常に胸にしながら、回答を考えていました（事前の準備でも、その場の心掛けでも）。

## Q3.林野庁に決めた理由

専門を活かす機会のある他省庁や地方公共団体はもちろんありました。しかし、説明会で耳にした職場の雰囲気が、オープンツアーのときに確かにそのまま感じる事ができたのは、決め手の一つです。

## Q4.後輩へのアドバイス

自分のまわりには公務員試験を受ける仲間が少なくかなり孤独でしたが、共に受験する遠方の友人と時々電話で相談しながら頑張りました。また、可能であれば面接の練習のためにどこか民間を受けておくことをすすめます。大学の専攻が林学でも、生態学や造園学他でもない方は結構いらっしゃると思います。林学科出身ではない方は勉強法も官庁訪問等も情報が少ないと思いますが、説明会等貴重な機会に何でも質問すると良いでしょう。

また、関心のある他省庁・地方公共団体（・民間）の説明会や見学会（参加できる学年ならインターン）に可能な限り足を運んで、自分のやりたい仕事に一番近いことができるところを見定めることが大切だと思います。最後は自分を信じて頑張らしましょう。

## 林 学 ②

学年・性別・年齢	学部4年・女・21歳
併 願 先	環境省・都道府県庁
インターンシップ	なし
試 験 区 分	林学
専 攻 科 目	流域水文学

### Q1.勉強方法（1次試験）について

#### （1）基礎能力試験

大学で公務員講座を取っていたので、講師の指示に従って勉強していました。出題数の多い知能分野を重点的にやり、知識分野は模試で間違ったところをノートにまとめるくらいしかしていませんでした。

#### （2）専門試験・専門記述試験

専門は独学でした。人事院から6年分過去問を取り寄せ、一問ずつ切ってノートに貼り、参考書(森林・林業白書と森林・林業実務必携)を見ながらその下に解説を書く、という形で自分専用の解説ノートを作りました。過去問は8周ほど回したと思います。記述の方は、1周しかできませんでした。

### Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

#### （1）身上書の書き方

公務員講座を取っているなら、自分で書いてみた後に講師の方に添削してもらおうと良いと思います。ハローワークや、大学のキャリアセンターで頼むのも良いと思います。

#### （2）官庁訪問

官庁訪問では、地図を渡されて、指示された職員の方のデスクに自分で行きます。私がデスクの場所が分からず迷っていると、近くにいた職員の方が“誰を探してるの？”と聞いて下さいました。仕事のお話だけでなく私生活(結婚や出産など)のお話も聞くことができ、参考になりました。

#### （3）採用面接

最後に模擬面接したのが面接当日の1か月ほど前だったので、当日は予想以上に緊張してしまいました。模擬面接はどうかして直前にも行っておいた方が良いと思います。また、最近関心のある出来事については、その出来事について自分がどう考えるのか、まで詰めておく方が良いと思います。

### Q3.林野庁に決めた理由

自然が好きなので、自然の中で働けたら、という気持ちと、地球温暖化を軽減させるようなことがしたい、という思いから志望しました。また、林野庁のアウトホームさや、幅広い業務に携われる、ということも志望を後押ししました。

### Q4.後輩へのアドバイス

就活では、自分がどんな人間で、何をしたいのか、考えても答えが出ず悩むことも多いと思います。でも、自分の性格や人生についてじっくりと考えられる機会は、今後そうないのではないのでしょうか。

真剣に、しかし気負い過ぎず、自分なりの答えを探してもらえたらと思います。

## 林 学 ③

学年・性別・年齢	既卒・女・24歳
併 願 先	環境省・都道府県庁
インターンシップ	なし
試 験 区 分	林学
専 攻 科 目	昆虫学

### Q1.勉強方法（1次試験）について

#### （1）基礎能力試験

現代文は制限時間を設けながら過去問を1周して、正答率が高かったなのでそのあとは対策しなかった。数的処理と判断推理を重点的に対策した。過去問を時間制限を設けて解き、1周したら間違えが多かった問題を対策本でさらに重点的に解いた。他は捨てた。

#### （2）専門試験・専門記述試験

過去問を取り寄せて印刷し、問題の裏に、白書と森林林業必携を見て解説を作成しながら勉強した。土壌学や植物病理学など、大学の講義のプリントやノートも用いた。記述は、大学で毎回A41枚の小論文を書く課題がある講義を受講していたときのプリントを見ながら対策した。

### Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

#### （1）身上書の書き方

具体的なエピソードで話の流れを作った。ただし、面接官に聞いてほしいところや突っ込んで聞いてほしいところはあえて細かく書かなかった。特技や趣味も、面接官が興味を引きそうに印象に残りそうなことを書いた。

#### （2）官庁訪問

1対1で、業務内容のほかにも色々と気になることや不安に思っていることなども質問できた。

#### （3）採用面接

1対6で面接だった。初めはすごく緊張していたが、面接前の待合室で他の学生や職員の方と話をしたり、面接直前にも職員の方が緊張をほぐしてくれて、すごくいい緊張感で臨めた。面接官の雰囲気もすくなごやかで、質問に対する私の返答で笑っていたり、私がリラックスできるような質問をされたりした。志望動機ややってみたい仕事の他にも、研究の内容についての質問や、特技に対する質問をされた。

### Q3.林野庁に決めた理由

幅広い業務に携わることができることに魅力を感じた。また、日本のいろいろな地域で仕事ができることも魅力的だと思っていた。

### Q4.後輩へのアドバイス

官庁訪問の仕組みや、面接対策などは余裕をもってしっかりと調べて準備した方がいいと思う。私は、官庁訪問の仕組みを理解しておらず、最終合格がわかった後に慌てて準備をしたため、身上書の書き方や内容、面接対策などがすごく不十分なままだった。結果的には内定を頂けたが、しっかりと準備していれば、気持ち的にももう少しゆとりをもって面接に臨むことができたのではないかと思っている。



## 林 学 ④

学年・性別・年齢	既卒・女・24歳
併 願 先	なし
インターンシップ	なし
試 験 区 分	林学
専 攻 科 目	流域森林保全学

### Q1.勉強方法（1次試験）について

#### （1）基礎能力試験

時間は絶対足りないので、苦手な科目は潔く捨てること。勉強していた科目でも、分からないと思った問題はすぐに後回しにする。とりあえず最後まで解いてから、時間が余れば戻って解きなおす。参考書をやるのもいいが、新聞やニュースに目を通しておくことも大事。

#### （2）専門試験・専門記述試験

今までの講義の資料や白書を使って勉強していた。白書には目を通すことをお勧めします。書店で注文できます。基礎能力同様、解ける問題から解くこと。見直しをする時間くらいは余ります。

### Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

#### （1）身上書の書き方

手書きより読みやすいかと思いExcelで書きました。スペースはそんなに広くないので、要点をまとめるようにしました。面接時に話せるよう詳しく書きすぎないように。伝えたいこと・思ったことを書き出してから、後から削っていく感じで仕上げました。

#### （2）官庁訪問

人事の方が職員さんにアポを取って、そちらに赴いて面談・雑談をするような形です。15分程度で2人の方とお話ししました。個室ではなくオフィスの片隅って感じでした。大体が身上書に沿って会話をしますが、色々質問することができました。緊張せず楽しむことができ、林野庁の雰囲気を感じることができました。

#### （3）採用面接

1対5～6で面接。思ったより距離は近かったです。私の時は途中で面接官が1人入ってきてちょっとびっくり。身上書に沿った質問がほとんどでした。相対する人数は多いですが、そんなに固い雰囲気ではなく、笑いが起きることも。ストレス耐性について聞かれました。

### Q3.林野庁に決めた理由

森林に関わっていきたかったのと、全国を色々回ることができそうだったのが、森林や林業に関して、多面的に関わることが出来そうだなと思った。

### Q4.後輩へのアドバイス

色々な人と話をする機会を大切にしてください。友人や家族などでもいいですし、可能なら自分とは異なる分野・価値観の人が良いです。異なる価値観に触れる事は、自分の視野を広げることに繋がると思っています。アルバイトやサークル活動・飲み会でも何でも、交流する機会はたくさんあると思うので、無理のない範囲で頑張ってもらえたらと思います。

## 林学・社会人①

学年・性別・年齢	社会人3年目・男・25歳
併願先	都道府県庁
インターンシップ	なし
試験区分	林学
専攻科目	森林生態学
<b>Q1.勉強方法（1次試験）について</b>	
<b>（1）基礎能力試験</b>	
<p>数的処理を中心に、市販の参考書を3周しました。                  社会科学や人文科学は、各分野1問ずつしか出題されないため捨てました。                  過去問を解かずに試験に臨んだ結果、本番のあまりの難しさと時間の短さに絶句しました。過去問は必ず1回は解くことをおすすめします。</p>	
<b>（2）専門試験・専門記述試験</b>	
<p>森林林業実務必携、森林林業白書その他、大学の授業の資料（学科が林学系だったので）を中心に勉強しました。                  特に白書の細かい数字や国名は要チェックです。                  本番の試験時間は3時間ですが、1時間程度で解き終わりました。</p>	
<b>Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）</b>	
<b>（1）身上書の書き方</b>	
<p>字が下手なので、エクセルで書きました。文字数が限られているので、文章を元に面接で話ができるようなキーワードとなるように書きました。具体的なエピソードや、「なぜ林野庁に入りたいのか」を入れると伝わりやすいと思います。</p>	
<b>（2）官庁訪問</b>	
<p>都合により参加できなかったのですが、その点も最終面接前に対応いただき、非常にありがたかったです。</p>	
<b>（3）採用面接</b>	
<p>1対6の面接ですが、とてもなごやか雰囲気でした。質問内容は、身上書に基づく一般的なものでした。</p>	
<b>Q3.林野庁に決めた理由</b>	
<p>「森を守ることを通じて国を守る」という林野庁の仕事内容に魅力を感じました。訪問させていただいた際の庁内の雰囲気がとても暖かく、ここだと思いました。</p>	
<b>Q4.後輩へのアドバイス</b>	
<p>公務員試験は、科目が多く大変だとは思いますが、具体的にそこでやりたいことや、働く自分をイメージするとモチベーションにつながると思います。私は林学で受験をしましたが、教養よりも専門試験を重視するような気持ちで勉強をしました。「できない」と思わず、最後まであきらめずに続けることが大切です。</p>	

## 林学・社会人②

学年・性別・年齢	社会人6年目・男・28歳
併願先	なし
インターンシップ	あり（大学3年時）
試験区分	林学
専攻科目	森林利用・森林施業

### Q1.勉強方法（1次試験）について

#### （1）基礎能力試験

かなり難しいが40問中16問でOKなテスト。とにかく試験時間が少ないので解ける問題を確実に正解することが重要。イメージとしては10問を自信ありで正解してあと6問を何とか直感を信じてとる感じ。現代文、判断推理は時間をかければ得点できる。選択肢の中には惑わすものも多く、全く分からない問題は選択肢を読まず直感でいくのがおすすめ。自分は人生で初めてえんぴつを転がした笑

#### （2）専門試験・専門記述試験

配点が4/9なのでほぼこの試験で合否が決まると思って臨んだほうがよい。5割近くの点は取りたいところ。技術士補や技術士の森林分野の問題と比べても圧倒的に難易度が高い。過去問を解かずに挑むのは無謀。自分はH10～19年の過去問とH27～29白書をやったが、実務必携からもそのままの文章が出題されたようだ。時間があれば読んだ方がよい。保安林面積、国有林面積など重要な数字は必ず覚える。

### Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

#### （1）身上書の書き方

まさか合格するとは思っていなかったのが合格発表後に書き始めたが、仕事が忙しく結局官庁訪問前日に書くこととなった。早めに準備しておいた方がよい。2次試験の面接カードと違い、記入スペースが少ないのでキーワードを絞って書くようにした。自分は時間がなかったため手書きで書いたが、Excelで書いた人も多いようだった。

#### （2）官庁訪問

本庁で働いている林野庁の職員の方と身上書をもとに1対1で面談した。時間は1回約20分、それを2回行った。人事の方が出身大学や出身地を見てマッチングさせてくれるため、話が合いやすく、聞きたいことも質問しやすかった。人生初めての大会社東京でかなり緊張していたが、林野庁のある7、8階に行ってみると古い時代の雰囲気があり気持ちを落ち着かせてくれた。

#### （3）採用面接

1対6の面接。担当の方によると、人事担当2名と林野庁課長4名とのこと。面接官が多いため開始直後は必ず圧倒される。答えづらい質問も多く、悩む場面もあったが、はきはき堂々と答えたところは評価していただいた。社会人は、社会人〇年で得たものは何ですか？の答えを考えておいたほうがよい。あと学生時代の卒論テーマも聞かれる。

### Q3.林野庁に決めた理由

私は、建設業で5年間働いてきました。主に長野県伊那市の南アルプスを中心に林野庁発注の治山・法面工事を施工してきました。現場は臨機応変に対応しなければいけないことが多くとてもやりがいがある仕事でしたが、日に日に南アルプス以外の森林も見たいと思うようになりました。林野庁に入れば、全国各地の現場で仕事ができますし、今まで培ってきた建設業の経験や知識も生かせると思い、国家公務員試験を受験しました。

### Q4.後輩へのアドバイス

1次試験で残ればあとはやる気で何とかできます。1次の勉強は多くの方が1月頃からやっているようです。自分は出遅れてしまい3月頃から始めました。私は社会人なので、朝6:00から家を出るまでの30分と、23:00から寝るまでの1～2時間をやるようにしました。バイトや部活や就活や卒論に忙しい学生に比べれば、社会人は時間的にも気持ち的にも楽だと思います。翌年もチャンスはありますし。なので、社会人で受験を考えている人は、自分が社会人だからと言い訳せずにコツコツ時間を見つけて頑張ってください。現場での経験や、土木系、コンクリート系の資格取得による知識は、必ず有利に働くと思います。

# 行 政 ①

学年・性別・年齢	既卒・女・25歳
併 願 先	市役所
インターンシップ	なし
試 験 区 分	行政
専 攻 科 目	経済学
<b>Q1.勉強方法（1次試験）について</b>	
<b>（1）基礎能力試験</b>	
<p>数的処理・文章理解に力を入れて学習しました。問題集で間違えた問題を何度も解くことや毎日触れることで感覚を鈍らせないように心がけていました。その他の科目については、過去問で傾向を把握し、問題集や模試で知識を習得しました。</p>	
<b>（2）専門試験・専門記述試験</b>	
<p>法律科目や経済は問題集を3周以上回しました。直前期には、4日で全科目に触れて、1か月で問題集を1周するようにスケジュールを組んで取り組みました。覚えることがたくさんで、忘れやすいことが課題だったので解く問題の中でも1分野から1問というように1日でも全体を復習できるような問題の解き方にしました。</p>	
<b>Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）</b>	
<b>（1）身上書の書き方</b>	
<p>端的に伝わりやすく書きました。面接で聞き出してほしいことを意識しました。手書きで記入したので、丁寧にわかりやすくはっきりと記入しました。</p>	
<b>（2）官庁訪問</b>	
<p>仕事内容についてホームページや説明会の資料を読み込み、仕事に携わるイメージを考えた上で職員の人に質問したいことを用意しました。1つ1つの質問に対して丁寧に教えてもらったのでより一層志望度が高まりました。</p>	
<b>（3）採用面接</b>	
<p>1対4の面接でした。1つ1つの質問に対して答えた後、面接官が皆さん頷いて聞いてくださっていたので和やかでした。公務員になるということ、やりたい仕事、行政職として自分がなにができるかなど、林野庁で働きたいという思いをうまく伝えられるかという点を見られていたように感じました。</p>	
<b>Q3.林野庁に決めた理由</b>	
<p>東北地域の地域振興のために働きたいと思っていたからです。過疎化が進み地域の活力が失われている問題があります。私は東北の大学を卒業した後も東北の自然豊かな観光地などを訪れ、心を癒されました。人の手によって豊かな緑が守られていることを知ったときに、人々の生活を守る役割を持つ木々を保全するとともに、観光資源としても守っていきたいと思いました。また、木材の有効活用という面から林業の発展にも携わり、地域経済の発展に努めたいと思います。行政職として、大学時代学んできた経営学の知識を活かして林業のビジネスを盛り上げていく力になりたいと思います。</p>	
<b>Q4.後輩へのアドバイス</b>	
<p>筆記試験も面接もくじけそうになることもあると思いますが、最後まで決してあきらめず全力で頑張ってください。同じく公務員を志す仲間や、応援してくれる人を大事にしてモチベーションを維持していました。</p>	

## 行 政 ②

学年・性別・年齢	学部4年・男・23歳
併 願 先	文部科学省
インターンシップ	なし
試 験 区 分	行政
専 攻 科 目	理科教育学
Q1.勉強方法（1次試験）について	
(1) 基礎能力試験	
<p>数的処理と文章理解はコツコツと一日一問でも過去問を解くほうがいいです。安定して得点を取るまでに必要な絶対量はあると思います。体得するまで解き続けることが一番の近道かもしれません。</p>	
(2) 専門試験・専門記述試験	
<p>法律科目は試験区分関係なく様々な過去問も解き続けました。新聞を毎日読んでいると経済科目の知識が理解につながりました。</p>	
Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）	
(1) 身上書の書き方	
<p>行政区分で希望森林管理局の欄がよく分からなければ、メールでの問い合わせをお勧めします。分からないことがあれば、その都度聞きましょう。自分の言葉でできる限り簡潔に書くことを心がけました。何度も書いては直しての繰り返しをして文章を洗練させると、面接の際に自分の言葉で話せるようになりました。</p>	
(2) 官庁訪問	
<p>1対1形式で10～15分間、終始和やかな雰囲気の中で色々質問できた。</p>	
(3) 採用面接	
<p>採用面接前に話をして落ち着ける時間があり、話しやすかった。1対5人で面接、終始和やかな雰囲気だった。転勤や一人暮らしが大丈夫か等について質問された。説明会の配布資料にあるように、明るく、自分の言葉で簡潔に説明することが大切だと実感した。</p>	
Q3.林野庁に決めた理由	
<p>「色んなところを見て、最後はうちに来てね。」と人事の方がおっしゃられたのが衝撃的でした。実際に複数の省庁を見て、比較し、その中で一番仕事内容に魅力を感じ、職場の雰囲気が自分に合っているのではないかと考えたのが林野庁でした。</p>	
Q4.後輩へのアドバイス	
<p>適度なストレス発散は大切です。休む時は休んで、やる時はしっかりやりましょう。官庁訪問の際に、人事院が勧めるユースホステルを利用すると様々な繋がりができるかもしれません。説明会に積極的に参加し、自分の目で見て、聞いて、話して、感じたことが何より大切です。そのときの出会いが人生を根底から変えることがある。よき出会いを。（相田みつを）</p>	

## 行 政 ③

学年・性別・年齢	既卒・女・22歳
併 願 先	都道府県庁・防衛省・農政局
インターンシップ	あり（市役所）
試 験 区 分	行政
専 攻 科 目	英米文学専修

### Q1.勉強方法（1次試験）について

#### （1）基礎能力試験

『速攻の時事』を読んで時事問題対策をする以外は、ほとんど数的処理の勉強ばかりしていた。特に資料解釈が苦手だったので、毎回時間を計って問題を解き、答え合わせをする時は解説の計算方法を確認するようにした。

#### （2）専門試験・専門記述試験

直前期には、問題集を解くよりも、テキストを通読して知識の整理をすることに重点を置いた。本番では、勉強量の少ない財政学に自信がなかったため英語（基礎）を選んだが、英文をじっくり読みすぎて時間がぎりぎりになった。

### Q2.官庁訪問・採用面接について（実際の雰囲気や役に立った対策、注意点）

#### （1）身上書の書き方

個別の項目というよりも身上書全体を通して、自分の人柄やアピールポイントと、自然が好きであることが伝わるように意識して書いた。枠が大きくなかったため、大まかなエピソードを載せるだけにし、面接で聞かれたら詳しく話せるように頭の中で整理していた。

#### （2）官庁訪問

自分と同じ行政区分で入庁した方や女性の職員の方とお話できるように計らっていただいたので、質問がしやすく、経験談などもより身近に感じられた。

#### （3）採用面接

1対6での面接は初めてだったので、面接室に行くまでは緊張したが、一人ひとりと会話をするという気持ちで臨むと面接中は落ち着いていられた。志望理由はほとんど聞かれなかったが、入庁後に携わりたい仕事や目標については身上書よりも掘り下げて質問された。卒業論文（文学系）についても質問されたので少し驚いたが、興味を持ってもらえて嬉しかった。

### Q3.林野庁に決めた理由

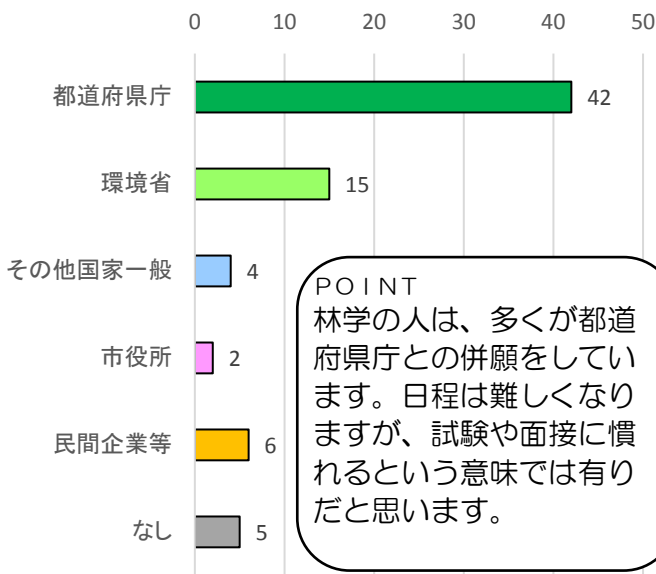
もともと自然が好きだったので、行政区分でも現場で働くことができる林野庁の存在を知った時から志望度が高かった。その後も、全国に仕事の間があることや、説明会での職員の方々の雰囲気が温かいことに魅力を感じ、官庁訪問でもそのイメージは変わらなかったため、やはり林野庁で働きたいと思った。

### Q4.後輩へのアドバイス

私は特に仕事内容を重視して志望先を決めましたが、他にも職場の雰囲気や転勤の有無など、人によって様々な条件があるはず。自分が大切にしたいと思う軸が何かを考えながら、説明会などの情報は早めに集め、少し遠くても気分転換を兼ねて参加してみるといいと思います。また、林野庁の官庁訪問・採用面接は東京で行われるため、遠方の人は大変ですが、できれば前日などに会場までの道や交通手段を確認しておくことをお勧めします。

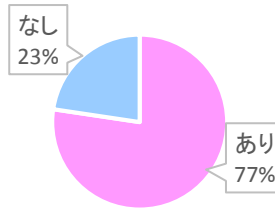
# (付録) 内定者の受験データ

## 併願先(林学)

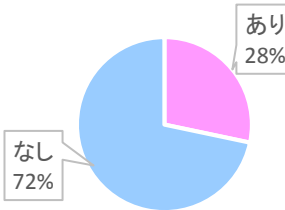


**POINT**  
林学の方は、多くが都道府県庁との併願をしています。日程は難しくなりますが、試験や面接に慣れるという意味では有りだと思います。

## 説明会参加(林学)

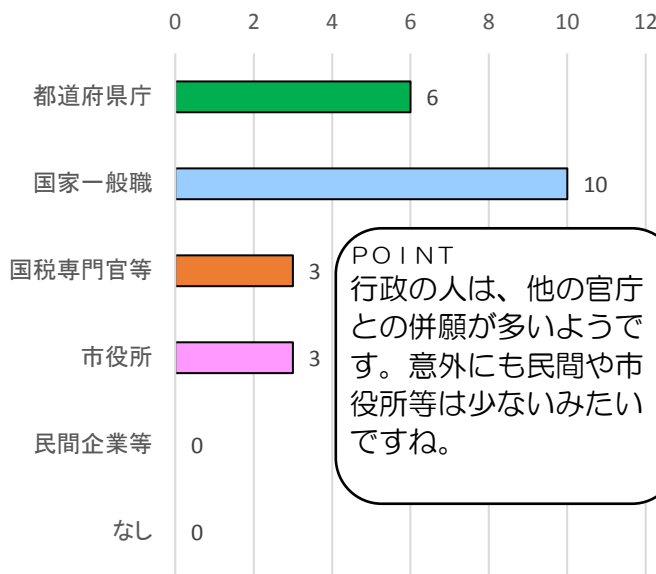


## インターンシップ(林学)



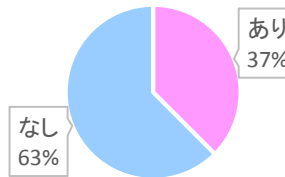
**POINT**  
説明会の参加はしているのとしていないのでは、情報やその後の自分の方向性を決めるのに大きく関わってきます。できるだけ積極的に色々なところを見るのがいいという意見が多かったです。

## 併願先(行政)

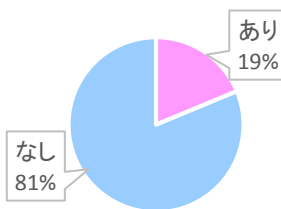


**POINT**  
行政の方は、他の官庁との併願が多いようです。意外にも民間や市役所等は少ないみたいです。

## 説明会参加(行政)

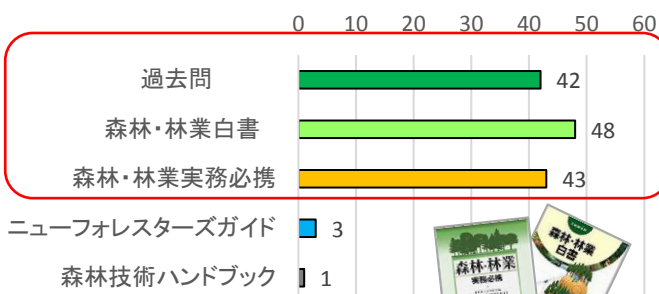


## インターンシップ(行政)

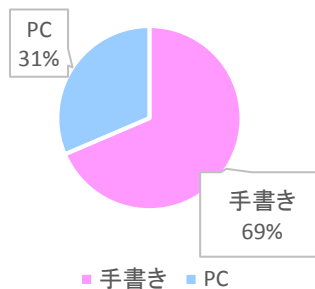


**POINT**  
インターンは説明会だけでは感じ取れない、実際の職場の雰囲気を知ることができます。しかし、必ず参加しているというわけではないようです。

## 勉強に使用したもの(林学)



## 身上書の書き方



**POINT**  
細かいところまで不安になってしまうあなたに・・・先輩たちは手書き派が多いみたいです。 ※あくまでデータです

**POINT**

過去問はやはり必須のようです。長い人で10年分、だいたい5年分ほど解く人が多いようです。過去問は人事院からも請求・入手できます。

※人事院開示請求電子申請システム [https://ssl.jinji.go.jp/kaijiseiky/kaiji\\_index.asp](https://ssl.jinji.go.jp/kaijiseiky/kaiji_index.asp)



人材育成



森林整備



木材利用



災害対策



山村振興



国際協力



木材生産



環境教育



特用林産物



鳥獣害対策